

脳神経内科医による訪問診療を社会に広めたい。 『Airリザーブ』で外来診察数・時間を適正化し、 1日15件以上の訪問診療を可能に



超高齢社会を背景に増加する在宅医療。
限られたリソースで、多くの患者に医療を提供するには

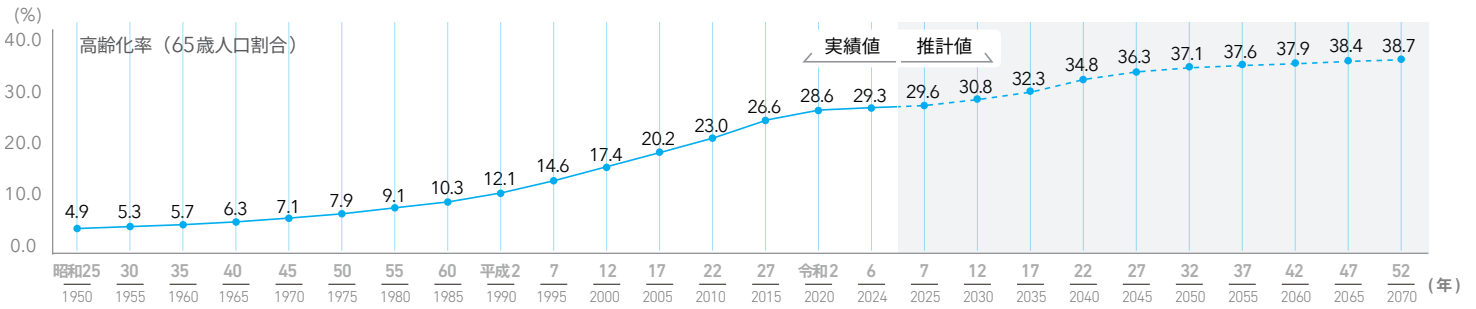


■ 令和6（2024）年の日本の総人口に占める65歳以上の割合は29.3%で、高齢化率は世界最高の水準（内閣府「令和7年版高齢社会白書」より）。こうした状況を背景に、在宅医療（訪問医療・訪問診療）のニーズが増加している。

■ 高齢・難病・寝たきりなどの理由で通院が困難な在宅患者の数は、2023年時点で100万人を突破（永井学「データを読む」、日経メディカル、2024年7月22日。厚生労働省「社会医療診療行為別統計」を基に作成された推計値）。入院外診療行為別の医療点数の推移を見ても、総数では減少しているにもかかわらず在宅医療は増加している（厚生労働省「令和6年社会医療診療行為別統計の概況」より）。

■ 高齢者人口がピークを迎える2040年頃までは在宅医療のニーズが高まり続けると予想されているが、課題は医療を提供する側の体制。中長期的には在宅医療に対応できるクリニック・医療従事者の強化など抜本的な対策も求められる一方、限られた医療リソースで患者に対応するには、運営体制の見直し（業務効率化）も急務になっている。

高齢化の推移と将来推計



診療行為別に見た入院外の1件当たり点数・1日当たり点数

診療行為	1件当たり点数				1日当たり点数			
	令和6年 2024 8月審査分	令和5年 2023 6月審査分	対前回		令和6年 2024 8月審査分	令和5年 2023 6月審査分	対前回	
			増減点数	増減率 (%)			増減点数	増減率 (%)
総数	1,478.5	1,480.9	△ 2.4	△ 0.2	996.6	1,007.1	△ 10.5	△ 1.0
在宅医療	123.5	121.3	2.2	1.9	83.2	82.5	0.8	1.0

出所：厚生労働省「令和6年社会医療診療行為別統計の概況」

煩雑になりがちな外来診療の予約業務を『Airリザーブ』に集約。 診療スケジュールが適正化し、外来診療だけでなく 訪問診療の機会も広がった



ジェイ内科・脳神経内科クリニック 院長 高橋 潤一郎先生

移動時間や診察時間など、医師の負荷が高い訪問医療。 鍵を握るのは、「効率性」と「計画性」

- 千葉県我孫子市にある「ジェイ内科・脳神経内科クリニック」。このクリニックの特徴は、医師が患者の元へ向う訪問診療がメインであること。院長の高橋 潤一郎先生は、自身の専門領域でもある脳神経内科の知見を持つ医師こそ、積極的に訪問医療に携わるべきだという信念で2023年にクリニックを開院した。
- その理由を高橋先生はこう述べる。「訪問診療が必要な患者さんとは、病気や高齢による衰弱などを理由に通院が難しい患者さん。実はこうした患者さんが歩けない・動けない原因は脳や神経の領域が原因であることが多いのです。また、パーキンソン病やALSなど、国の指定難病には神経系の疾患も多い。それらが原因で寝たきりになっている患者さんもあります。そうであれば、この領域の専門性を持つ私たちこそ訪問診療を担うべきなのではないか。脳神経内科医による訪問診療の成功モデルを作り、社会に広めていきたいという思いでクリニックを始めました」。また、訪問診療では患者の普段の生活を見ることでより適切なアドバイスもしやすい。患者によっては「クリニックより自宅のほうがリラックスして自身の症状を話しやすい」といったメリットもあるようだ。
- しかし、高橋先生は訪問診療ならではの難しさにも直面した。それは、外来の診療に比べて負担が大きいこと。訪問先である患者の自宅や介護施設は我孫子市および柏市全域にあるため、勤務時間の3分の1はどうしても移動に費やしてしまう。また、訪問診療と並行して行っている外来診療との両立にも頭を悩ませた。「できるだけ多くの患者さんに医療を提供するには、診療以外の手間になっている業務をできるだけ効率的かつ計画的に進めたかったです」。





『Airリザーブ』で外来診療の 予約受付・管理をDX。 時間内で計画的に診察しやすい体制に

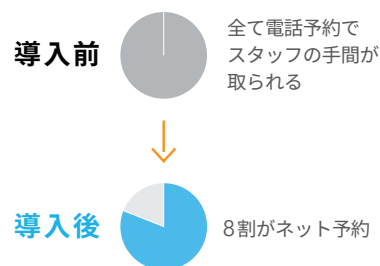
■効率化したい業務のひとつとして高橋先生は診察予約の受付や予約管理に着目した。「訪問診療については細かな確認事項があり、電話で丁寧にヒアリングをしたほうが結果的にスムーズだと考えてDXを進めることは避けました。一方で**外来の場合は来院が可能な分、若い患者さんやご家族が対応可能な場合が多く、ネット予約にはなじみやすい**と考えたんです」と高橋先生は狙いを説明する。



■そこで導入したのが予約システムの『Airリザーブ』。決め手になったのは無料体験で実感した、初めてでも迷わず扱いやすい操作性だということ。クリニックの公式サイトに組み込んだり、予約可能時間や予約枠の設定をしたりといった初期設定のしやすさもポイントになった。「私たちの使いやすさだけでなく、患者さんの使いやすさも『Airリザーブ』に決めたポイントです。患者さんの立場になって考えてみると、早朝・夜間・休日も予約ができるのはネット予約の利点。また、予約システムが使いづらくて来院をあきらめたり先延ばしにしたりすることもあると思うんですね。**適切なタイミングで医療にアクセスしてほしいですし、クリニックにとっても機会損失は避けたいですから、患者さんにとっての利便性は非常に大切でした。**」

■『Airリザーブ』を導入後、外来予約の8割はネット予約に変化。電話対応にかかっていたスタッフの手間が大きく軽減された。一方、高橋先生自身が最も実感しているメリットは、いつでもどこでも予約状況を確認できることだということ。「訪問診療がメインのため、私は外出していることが多いです。そのため、都度クリニックに戻らなくてもスマートフォンでタイムリーに確認できるのはありがたいですね。**外来の予約数や患者さんの顔触れが事前に分かれば診察時間のペース配分もしやすいですから、結果的に1日のスケジュールも組み立てやすくなりました。また、予約時間や予約枠数の調整も移動中に簡単にできるのも助かっていることのひとつ。『この日は訪問診療が多いから外来の予約枠を少し絞ろう』『この日は外来後の外出はしないので予約枠を増やそう』と柔軟に対応できるのもありがたいです。**」

外来予約の工数減



テクノロジーを活用したクリニック運営で、 患者一人ひとりに向き合える時間が増えた

- 訪問診療の1日の訪問件数は一般的に10件程度といわれるなか、現在のジェイ内科・脳神経内科クリニックでは、1日に15件以上の診察を行っている。介護施設など一度の訪問で60人もの患者を診察した日もあるそうだ。こうした医療体制を実現できたのは、院長である高橋先生がデジタルツールを活用したDXに取り組み続けた結果。『Airリザーブ』も診察数の増加に一役買っているという。「以前は外来診療が時間内に終わらないかもしれないからと、その後に訪問診療を入れづらかったのですが、今は**外来をコントロールしやすくなったので、安心して訪問の予定を入れられます**」と高橋先生は『Airリザーブ』を評価する。

訪問診療の
予定を組み立てやすくなった
ことによる診療数の増加

一般的には **10件程度** → **15件以上**
△ AirRESERVE 導入後

- 業務の効率化は、診療できる患者の数を増やすだけでなく、一人ひとりの患者にしっかりと向き合う時間を確保する意味でも重要。だからこそ、高橋先生は現状の運営体制に満足せず、常に進化を続けるクリニックでありたいと語る。「例えば診察券。昔は患者さんの管理のために必須だったかもしれませんが、マイナンバーカードが登場した今では診察券がなくても患者さんの管理は可能です。だとすれば、もはや診察券を発行する意味はあまりなく、受付はマイナンバーカードに一本化できるかもしれません。私はこうした社会の変化に敏感になって柔軟に取り入れながら、医療業界、特に訪問診療の新たなあり方を世の中に提示していきたいですね。」



- 現在、33歳の高橋先生が目指す未来は、予約業務だけでなく医療に付帯するあらゆる周辺業務をテクノロジーで自動化していくこと。それは、次世代を担う若手の脳神経内科医に訪問診療を目指してもらうためにも欠かせないという。「脳神経内科医は、その専門性の高さゆえに大学病院や研究機関に集中していて、地域に根差した脳神経内科クリニックの数はまだ十分とは言えません。だからこそ私は、若い世代の医師にチャレンジしてみたいと思える姿を見せたい。**脳神経内科医の専門性を必要とする地域の患者さん**にしっかりと向き合っている状態を実現したいです」と今後の抱負を語ってくれた。

